

「京都文教大学海外出張助成金」交付による海外出張報告書

2010年7月21日提出

| 申請年度              | 2010年度（平成22年度）  |         |  |
|-------------------|---|---------|--|
| 所属                | 臨床心理学科  | 報告者・職氏名 | 講師 中見仁美  |
| 海外出張内容<br>(種別に)   | 目的 学会発表(27th The International Congress of Applied Psychology)のため。<br>訪問国・地域 オーストラリア・メルボルン<br>助成額 235,000 円 |         | ・ <input checked="" type="checkbox"/> 学会<br>(発表 <input checked="" type="checkbox"/> /無)<br>・調査<br>・会議<br>・セミナー |
| 期間                | 2010年7月10日(土) ~ 2010年7月17日(土)   |         | 6泊7日   |
| 上記出張期間の研究・調査等活動経過 | 7月10日・・・日本(関西空港)出国  |         |  |
|                   | 7月11日・・・オーストラリア(メルボルン)到着  |         |  |
|                   | 7月12日~16日・・・学会参加・発表   |         |  |
|                   | 7月17日(早朝)・・・オーストラリア出国   |         |  |
|                   | 7月17日(夕方)・・・日本(関西空港)到着  |         |  |
| 研究・調査発表等概要        | 現在の父親の階層性と関連が見られたが、過去の父親のかかわりが現在の家族関係   |         |  |
|                   | とどのような関連があるのかを検討した。その結果、過去の父親とのかかわりの親密  |         |  |
|                   | なほうが、階層性よりも関連強かった。これは児童期の親とのかかわりを回想する   |         |  |
|                   | と、顕在的な親密さが回想しやすいことがあるのかもしれない。また現在の父親との  |         |  |
|                   | 関係は、過去の父親との親密な関係があって、思春期を経て父親の階層性を意識する<br>という知見が得られた。   |         |  |
| 研究・調査発表等々の成果の概要   | 海外の家族心理学についての基調講演を聴き、今回の発達が家族療法などで実証  |         |  |
|                   | 的な研究の一助となることが分かった。  |         |  |
|                   | 海外のジェンダー研究の口頭発表、発表者とのディスカッションにより、日本の  |         |  |
|                   | 家族についての特徴をより明示する必要性を感じた。  |         |  |
| 研究・調査等の成果発表予定     | その他：2010年9月の日本心理学会で、この研究の前提となっている Family System Test (FAST) の力関係について発表を予定                                   |         |  |